

ヨーロッパの CINET が、パークロロエチレンと代替品との洗浄性能評価研究を公表

テキスタイル・ケア国際委員会で、全国テキスタイル・ケア協会の資産をプールする CINET(International Committee of Textile Care)が、今月、ヨーロッパと米国でドライ・クリーニング溶剤に依然として最も広く使われているパークロロエチレンと 8 つの代替品の洗浄性能を比較した研究を公表した。

この研究には、炭化水素、Green Earth、液化二酸化炭素、湿式洗浄、Solvon k4、Rynex と iPura いるが、n-プロピルブロマイド(DrySolv や Fabrisolv の商品名で販売されている)は、含まれていない。

CINET レポートのコピーは、CINETのウェブサイト(www.cinet.org)で入手出来る。

HSIA SOLVENT NEWS YOU CAN USE SEPTEMBER 2011

世界でのクリーニング分野における溶剤使用割合

CINET レポート(SOLVETEX II)より抜粋。

世界における溶剤の使用割合(2010年：CINET 調査) (単位：%)

	Perchloroethylene	Hydrocarbon solvents	Wetcleaning	Other
ベルギー	65	25	7	3
デンマーク	50	40	6	4
フィンランド	70	1	29	
ドイツ	50	24	26	
オランダ	45	25	30	
ノルウェー	60	38	2	
スウェーデン	75	5	10	10
ルーマニア	70	1	29	
イギリス	70	5		25
日本	11	88		1
アメリカ	70	27	1	2
カナダ	95	5		

CINET SOLVETEX II

EPA は、トリクロロエチレンに関する最終リスクアセスメントを公表

9月28日、EPAは、トリクロロエチレン(TCE)の統合的リスク情報システム(IRIS)アセスメントを公表した。

その概要は、www.epa.gov/iris/subst/0199.htm で、添付の毒性レビューは、www.epa.gov/iris/supdocs/0199index.html で入手出来る。

この文書に対する HSIA の報道発表文は、HSIA のウェブ・サイト(www.hsia.org) 上の「What's New - Press Releases」で見ることが出来る。

最終アセスメントは、2009年のドラフトから少し変更され、トリクロロエチレンは、「ヒトに対する発癌性とヒト非癌健康ハザードが認められる」と分類されている。

HSIA は、このアセスメントに失望させられ、EPA の化学物質分類に同意していない。

HSIA SOLVENT NEWS YOU CAN USE OCTOBER 2011

HSIA は、「ヒトに対する発癌性が認められる」という EPA のトリクロロエチレンに対する分類に反対である

バージニア州、アーリントン(2011年9月)ーハロゲン化溶剤工業連盟(HSIA)は、IRIS プロセスの完成を歓迎する、しかし EPA が溶剤トリクロロエチレン(TCE)を「ヒトに対する発癌性が認められる」と分類したことに対して失望を表明する。

「EPA は、公共機関や他の政府機関のコメントを考慮に入れていないし、EPA が「説得力がある」と呼んだ証拠が、せいぜい「限られたか関連を連想させる」程度のものであるという全米科学アカデミーの最近のレポートも無視している」と、科学プログラムの HSIA 責任者 John Bell が述べた。

有効性ファクターを導くために EPA が用いるモデリングも、あまりに保守的であり、動物と人間の違いに関する公表された大量のデータを反映していないとも、彼は述べた。

トリクロロエチレンは、20年以上にわたって飲料水安全法、資源保全再生法や大気汚染防止法に包括的に規制されている。

これらの規制は、その使用や許容排出量を既に制限し、適切な取扱いと廃棄を要求している。

HSIA 会員企業は、全ての連邦及び州の規制に従って、トリクロロエチレンを製造・販売している。

トリクロロエチレンは、その安定性、高沸点、低可燃性という理由で多くの工業用途に最適な溶剤である。

トリクロロエチレンは、EPA の規制や製造業者から提供される安全データシート(MSDS)に従って取扱い、使用し廃棄するならば環境を害するリスクはない。

簡単に代替できない多くの用途がある。

HSIA PRESS RELEASES SEPTEMBER 29, 2011

HSIA は、パーキンソン病と溶剤暴露との関連に疑問を呈する

バージニア州アーリントン(2011年11月16日)–2011年11月14日に神経学誌(the Annals of Neurology)にオンラインで公表された双子の溶剤暴露とパーキンソン病のリスクという表題のゴールドマン等の研究成果を解釈する際に注意するよう、ハロゲン化溶剤工業連盟(HSIA)は強く促した。

研究デザインは、第二次世界大戦中に一緒に兵役に就き、その後、双子の一方がパーキンソン病(PD)と診断された白人の全て男性の双子の比較的少人数の集団を利用した。

論文は、「これは地域住民をベースにした研究において、TCE(トリクロロエチレン)暴露とパーキンソン病リスクとの間の重大な関係を最初に確認したものである」と述べているけれども、結論は実測された化学物質暴露データ無しに作られた。

化学物質暴露は、10歳の頃からの職業や趣味の履歴や特定の活動に基づく仮定した溶剤暴露レベルに基づいて「推定」された。

パーキンソン病グループの46%は、配偶者、双子の兄弟或いは他の兄弟として記載された「代理回答者」によって情報が提供された。

パーキンソン病グループの99人中10人と双子対照グループの99人中3人だけがトリクロロエチレンに暴露されたとして分類された。

確認された溶剤暴露が無いことを含む調査の限界を考慮すると、溶剤暴露とパーキンソン病の間の因果関係について、この研究から結論を導き出すのは適切ではないと HSIA は確信する。

共著者の一人、Caroline Tanner 博士が述べたように、調査は、故意に少数の特定の人に制限されている。

「それは、十分に特徴付けられた暴露歴を持つ追加の集団において、これらの結果を再現することが重要である」と彼女はコメントした。

HSIA とその会員企業は、我々の化学物質の安全で責任ある利用について、引き続き力を注いでいく立場に変わりはない。

トリクロロエチレン(TCE)は、今日の先進技術や方法を考えると安全に取扱い、使用できる。

トリクロロエチレンのユーザーは、適用される全ての規制にも MSDS に含まれる情報にも従わなければならない。

トリクロロエチレンは、その安定性、高沸点及び低可燃性で多くの工業用途において、最高の溶剤である。

HSIA は、科学的研究成果を見つけ出すために事実とデータに基づく優れた科学を利用する必要性を支持する。

HSIA PRESS RELEASES NOVEMBER 16, 2011

「双子の溶剤暴露とパーキンソン病リスク」と題する研究のマスコミ報道に対する HSIA の回答

この数週間、関連する研究についての広範なメディアの報道があった。

調査の限界を考慮すると、溶剤暴露とパーキンソン病の間の因果関係についてこの研究から結論を導き出すのは適切ではないと HSIA は確信する。

HSIA の詳細な対応については、HSIA のウェブサイト(www.hsia.org)上の「What's New - Press Releases(HSIA PRESS RELEASES NOVEMBER 16, 2011 : 前記翻訳文)」をご覧ください。

HSIA SOLVENT NEWS YOU CAN USE DECEMBER 2011